

とやまワイズメンズクラブ 2021 年 12 月号ブリテン

主 題 2021-2022 年度：国際・アジア太平洋地域区・部

クラブ会長主題「リボーンとやま、あらたな第一歩」 会長 清水 淳

- ・ 国際会長主題 “Y's Men with the World” (世界とともにワイズメン) 国際会長 Kim Sang-che (韓国)
スローガン “Heal the World with Love & Dignity”(愛と尊厳で世界を癒やそう)
- ・ アジア地域会長主題 “Make a difference beyond the 100th” (100 年を越えて変革しよう)
スローガン “Be healthy!” (健康第一！) アジア地域会長 大野 勉 (神戸ポート)
- ・ 西日本区理事主題 “Challenges for the future” (未来への挑戦)
スローガン 「羽ばたこう！2022 年ワイズ 100 周年に向かって！」 西日本区理事 新山兼司 (京都トップス)
- ・ 中部部長主題 「楽しくやろう ワイズの活動 地域と YMCA と共に」 部長 渡辺真悟 (名古屋)

日 時：2021 年 12 月 13 日 (月) 18:00~20:00

会場：富山 YMCA 堤町センター

例会プログラム

18 時 00 分 例会開始 司会：島田 茂

開会式 1) 開会点鐘 2) ワイズソング 3) 聖書朗読 4) 祈祷 5) 清水会長挨拶
6) 正野忠之ワイズ (大阪泉北 Y's 会長、阪和部次期部長) の訪問・挨拶

18 時 30 分 卓話：「クリスマス、あなたの心にプレゼント」

ゲストスピーカー：関丙俊氏 (ミン・ピョンジュン-富山小泉町キリスト教会牧師)

19 時 30 分 報 告

- 1) ワイズ活動報告と今後の予定
- 2) 次回の内容：1 月 10 日 (月) 17 時 ホテル古志
内容：① 例会 17:00~17:50
② 新年会 18:00~20:00

1 月例会は、ホテル古志で
新年会を行います。
会費は、宴会込みで 1 万円
* 宿泊されない方は 6 千円
の予定です。

- 3) YMCA 報告 4) ハッピーバースデー 5) ニコニコ BOX

19 時 55 分 閉会点鐘 20 時 00 分 閉会

【11 月第 1 例会出席報告】卓話：「長野台風 19 号被災から 2 年-復興の歩み」スピーカー：島田 茂

日 時：2021 年 11 月 8 日 (月) 18:00~20:00 富山 YMCA 堤町センター

(敬称略)

出 席：清水淳会長、青島明生、池田通則、小泉宗政、菅原美穂子、中島完一、中川喬之、橋本順子、
島田 茂 以上 10 名 (18 名中出席率 56%)

ゲスト：村上 隆、竹中成行 以上 2 名 * 竹中さんは、1 月から入会

欠 席：青山 仁、内山政子、城石芳人、高松朱音、舟崎優満、水野 績、松浦正樹 以 8 名

- * YMCA 報告 ① 11 月 3 日ファミリーバザーは昨年よりも募金も収益もあり、盛況であった。
② 12 月 12 日 (日) に二番町教会でファミリークリスマス会が行われる。
③ 冬期プログラムの募集が始まった。

聖書 フィリピの信徒への手紙 2章 5～8節

5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。
6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、
7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で
現れ、8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

卓話：「長野台風 19 号被災から 2 年-復興の歩み」スピーカー：島田 茂

私が理事をさせて頂いている社会福祉法人賛育会が運営する豊野事業所が、2019 年 10 月の台風 19 号で水害にあってから 2 年が経ちました。病院棟、特別養護老人ホーム棟、そして、グループホームの三つの建物は、千曲川の堤防決壊により、一階天井まで浸水し、甚大な損害を受けました。

今年 4 月で 1 年半に及んだ復旧工事が完了し、平屋のグループホーム以外全ての事業を再開し、被災前以上に地域の方々に利用していただいています。駆け付けてくださった川渕映子ワイズや YMCA・ワイズの皆様のお祈りとご寄付に深く感謝申し上げます。

当時、入居されていた 276 名の方々は、垂直避難により人的被害はありませんでしたが、行政や関係団体等の支援を受け、全員、他の病院や施設に避難していただくとともに、介護医療院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームの入居系 4 施設とクリニック・訪問介護など通所系の全事業を停止しました。当時、私たちは、がれきの山を見て事業所を復旧できるか不安になりました。コリントの信徒への手紙 I 10 章 13 節「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」の聖句が示され、共に祈りあい、職員全員の雇用継続を決め、多額の借入を行い、すぐに復旧に取り掛かりました。

「地域の復興なくして、豊野事業所の復興なし」を合言葉に、隣人愛のミッションに基づき、被災した地域支援に被災直後から休みなく取り組みました。がれきの撤去に始まり、社協や地域の NPO、県外のボランティア団体とも協働して、支え合いセンター「まちの縁側ぬくぬく亭」の開設と運営に関わりました。最大で 15 名の専従職員を配置して、被災による住宅解体のための汚泥除去、個別訪問、休校中の中学 3 年生の学習支援、炊き出し、足湯などのイベントや作業と傾聴を実施してきました。特に新型コロナウイルスの感染が広がる中、「被災者を孤立させない」という思いから、配食や戸別訪問の強化、電話による励ましなど、三密を避けながらできる支援を継続しました。

現在、地域の方々の医療・福祉サービスの提供が継続でき、職員が一丸となって患者・利用者一人ひとりのことを思い、懸命に仕えている活動ができています。これからも東京大学 YMCA にルーツをもつ社会福祉法人賛育会を覚えていただければ幸いです。



豊野事業所全景
2018年8月撮影